

2022年4月1日

公益社団法人日本語教育学会
会員・関係者各位

公益社団法人日本語教育学会
会長 齋藤ひろみ

2022年度秋季大会以降の大会運営について（コロナ後の実施形態に関する方針）

拝啓 時下益々ご清祥の段お慶び申し上げます。平素は学会の運営にご理解、ご協力を賜りまして、御礼を申し上げます。

本会では、2021年4月より、コロナ禍の収束後を見据えた大会の実施形態等につきまして、大会委員会を中心に検討を進めてまいりました。このたび、2021年度第3回理事会の決議を経て、2022年度秋季大会以降の実施形態等について、学会としての方針を定めましたので、以下のとおりお知らせいたします。

基本的な方針として、「春季大会は全面オンライン開催、秋季大会は対面による会場開催」とすることが決定いたしました。時期の変更はなく、秋季は各地域のコンベンションセンターなどを活用して行う方針を原則とする従来の方針を踏襲いたします。年度内2回のうち1回の大会をオンライン開催とした理由は、コロナ禍で臨時的に開催したオンライン開催が好評を得て、今後もオンラインによる開催の継続を望む声が多数寄せられたためです。一方で、オンライン開催の継続とともに、対面での発表・交流の機会を望む声もいただきました。

この決定に伴い、各季のプログラム編成を一部変更するとともに、実施形態別に発表要領を策定しました。実施に関する詳細および方針決定までの経緯・検討体制および手続き等については、別紙をご参照ください。

今後、より充実した形で大会が運営できるよう、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、2022年度秋季大会については、基本的には上記の方針に沿って会場開催を予定しておりますが、いまだコロナの変異株等の影響が不確定な部分があるため、現時点では条件付きでの開催方針を検討いたしました。詳細については、以下の「2022年度秋季大会 開催方針について」をご覧ください。

敬具

参考：[2022年度秋季大会 開催方針について](#)

《本件の問合せ先》

公益社団法人日本語教育学会 大会担当メール：taikai-office@nkg.or.jp

※現在、交代勤務体制につき、メールによるお問合せにご協力のほどお願い申し上げます。

別紙

1. 検討経緯

2021年3月に策定された第2次中期計画において、大会事業に関しては、中長期的な観点からの現行プログラム（企画・タイムテーブル）の見直しや、オンライン開催の常設化・発表の実施形態や実施時間等の検討を含む、研究・実践等の発表の場の提供に関する再検討が挙げられた。本件について、支部集会以での発表の在り方や大会時の企画との関連も含めて委員会横断的に検討を行うため、2021年度第1回常任理事会の承認を経て、大会委員会内に「大会運営課題検討のための委員会横断部会」（以下、大会運営検討部会）を設置し、支部活動委員会と連携のうえ、2021年5月より検討を開始した。

2. 基本的な方針に関する補足説明

- (1) 各地域の支部活動委員が企画する「交流ひろば」、「地域発信企画」、学会の定める「社会的課題」に即したテーマと地域の課題を連動させて社会啓発委員会が企画する「一般公開プログラム」は、従来から秋季大会に配置されているため、当該大会は全国各地での会場での対面開催とする。
- (2) 会場での対面開催は、中小規模の自治体で実施する場合に地域振興を目的とした開催補助金が見込まれるが、首都圏では、開催補助金の獲得が見込まれないことに加え、会場費も高額であることから予算上実施可能な会場が少ない。このことから、秋季大会の開催は全国の中小規模の自治体での実施を中心とし、そのうえで、首都でも予算面の条件に合致する会場があれば実施するものとする。
- (3) 1つの大会での同時ハイブリッド開催については、会場での参加者数の予測が難しく、自治体等による開催補助金（※1）を受けてコンベンションセンターなどを活用することに支障が生じる。このことからハイブリッド開催は行わないが、オンライン開催と会場での対面開催の特性を生かしたプログラム編成を念頭に置いて検討を行った。

※1 宿泊を伴う参加者数に応じた補助制度であることが一般的である。

3. 関連委員会との検討

主にプログラム編成およびタイムテーブルの再検討に先立ち、2021年7月末～8月初旬に大会内の各企画の担当委員会等（支部活動委員会、チャレンジ支援委員会、調査研究推進委員会、表彰委員会、社会啓発委員会、学会連携委員会、総務担当理事）の代表にメールによる「コロナ禍の収束後の大会運営に関するアンケート」調査を行った。質問項目は、各企画の規模・時間数・実施形態、大会での継続実施希望、オンライン開催による問題、個別課題である。その調査結果を踏まえて、大会運営検討部会（大会委員会内に設置された支部活動委員会との横断的部会）で作成した大会の会場開催／オンライン開催それぞれのプログラム・タイムテーブル案について、10月に同委員会に最終確認を行った。その結果、確認が得られた。従来からの変更点を以下に示す。

<変更点>

①開会式・授賞式

→春季大会の式典（開会式・授賞式）を秋季大会の同時間帯（13:00～13:50）に移し、「交流ひろば」の開始時間をパネルセッションと同じ14:00とする。

②代議員総会・代議員懇談会

→大会とは独立した形で実施する。

③調査研究推進委員会によるセミナーの固定枠化

→従来は説明会枠（※2）を利用して実施されてきたが、秋季大会の固定枠として設定する（時間帯は変更なし）。

※2 当学会に関連する分野の独立行政法人・大学共同利用機関法人、内部委員会の申請に基づき提供。内容については「各団体による事業・取組などの説明・報告を目的とし、大会参加者に広く資するもの」としている。

④「交流ひろば」の会場規模

→2024年度秋季大会以降、計20枠（10枠×2部制）が配置できるスペースの確保に努める。

4. 方針決定までの手続き

常任理事会（2021年度第3～5回）および理事会（2021年度第3回）において、実施形態に関する方針、各季のプログラム編成、実施形態別の発表要領について審議、承認を受けた。

また、2021年度代議員懇談会においても方針案に関する中間報告を行った。

5. 今後の予定

- ・会場開催用の発表要領は2022年4月6日に公開し、2022年度以降の秋季大会に適用する。
- ・オンライン開催用の発表要領は2022年10月6日に公開し、2023年度春季大会から適用する。
- ・プログラム編成は本文書4-5ページを予定する。但し、発表（パネルセッション・口頭発表・ポスター発表）の実施曜日については大会ごとに変更される可能性を含む。

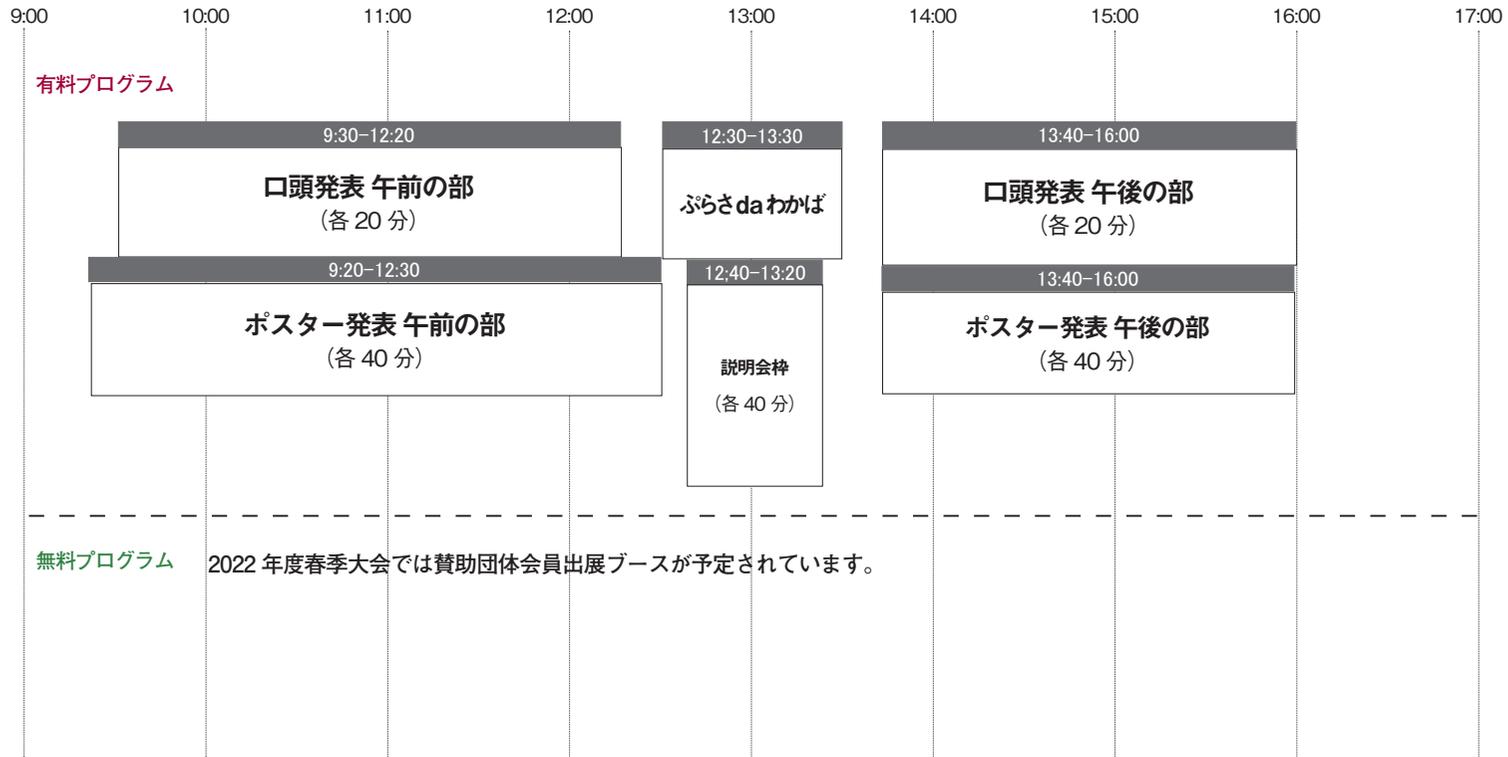
以上

春季：オンライン開催（2023年度以降）

5月2X日（土）



5月2X日（日）



秋季：会場開催（2022年度以降）

